

アカウニの増養殖試験

小島 博・森 啓介

アカウニ種苗の量産は可能である^{1,2)}が、種苗の有効な利用法については不明な点が多い。本年度は垂下式籠養殖並びに種苗放流したアカウニの成長について調査したので、その概要を報告する。

1 材料及び方法

昭和58年11月に採苗したアカウニ200個を昭和59年12月13日より阿南市橘湾小勝島の白浜地先で養殖試験を開始した。アカウニは水深6mの水域に設置された筏から水深2mへ垂下したポリ製の籠(1×1×0.8m, 目合3mm)に収容された。餌料としてアオサ, テングサ, ヒジキ及びアラメを飽食量投与した。このアカウニを昭和60年6月15日及び12月16日に測定した。また、養殖アカウニと同一発生群を昭和60年12月13日に橘湾長島へ、同年12月14日に伊島町港内へそれぞれ放流した。これらのアカウニについて、長島地先では10月27日に、また伊島町港内については昭和61年1月13日に殻径を調査した。

一方、昭和59年11月に採苗したアカウニ種苗を昭和60年6月15日から前年度種苗と同様に橘湾小勝島白浜地先で養殖試験を開始した。試験個数は3,000個で、収容した籠は2×1×0.8mである。このアカウニの殻径調査を60年12月16日に行った。また、59年度産アカウニ、1,500個を61年1月13日に伊島町大浦湾サム谷へ放流した。

なお、橘湾でのアカウニ養殖試験、放流試験については橘町漁協海士会谷口成司、沖野順の両氏にご協力をいただいた。併せて感謝の意を表す。

2 結 果

養殖試験に供したアカウニの殻径組成、平均殻径を表1に示した。放流アカウニの殻径組成、平均殻径を表2に示した。

垂下式籠養殖及び放流したアカウニの成長を図1にまとめて示した。放流したアカウニは長島、伊島町港内ともに満2歳で平均殻径が35mm程であるが、養殖し

表1 養殖開始時のアカウニの殻径組成

年 月 日	59年12月13日		60年6月15日	
	殻 径 mm	%	0.9	%
7			3.5	
8			4.8	
9			11.6	
10			14.9	
11			17.7	
12			18.2	
13			9.8	
14			7.8	
15			5.5	
16			2.4	
17		1.0	0.7	
18		6.0	0.9	
19		10.0	1.0	
20		15.5	0.2	
21		19.0		
22		18.0		
23		17.0		
24		7.0		
25		5.0		
26		1.5		
27				
平均殻径 mm	2.29		1.29	
養殖放網	200		3,000	

表2 放流アカウニの殻径組成

放流場所	橘湾長島		伊島町港内		伊島町大浦	
	放流年月日	59年12月13日	59年12月14日	61年1月13日	61年1月13日	61年1月13日
殻径 10mm		%	%	0.5 %		
11				1.5		
12				2.5		
13				4.0		
14				6.0		
15		1.7		9.0		
16		1.7		9.5		
17		6.6		13.5		
18		4.1		9.5		
19	1.0	19.0		9.5		
20	3.0	24.8		8.0		
21	11.0	17.3		5.0		
22	19.0	20.7		6.0		
23	24.0	4.1		5.0		
24	13.0			4.0		
25	19.0			2.0		
26	6.0			1.5		
27	4.0			0.5		
28				1.5		
29				0.5		
30						
31				0.5		
平均殻径 mm	23.8	20.6	18.9			
放流数個	100	300	1,500			

たものでは45mmに達した。放流群はいずれも放流地点付近から見いだされ、移動範囲がきわめて狭いことが予想された。

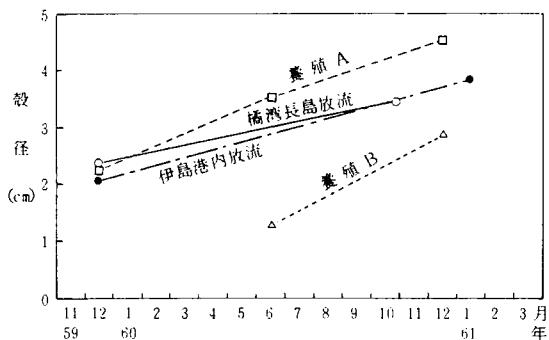


図1 アカウニの成長 養殖は垂下式カゴにより
橋湾白浜にて実施 Aは58年産，Bは59年産

3 考 察

養殖アカウニの成長が放流したものに比べて優れていたが、これは主に餌の量によるものであろう。長島地先の放流場所は水深1mの転石地帯で、植生はアオ

サ、テングサ、アカモクなどである。また、伊島港内の放流場所は防波堤の内側に設置された径1m前後の割石上で、植生はアオサなど単年生海藻である。放流場所はいずれも秋頃には藻類が少なくなる。それに対して養殖群では、アラメ、ヒジキも投与され、餌料をきらすことなく飼育されている。

アカウニは殻径が5cm以上で商品として扱われるのを、養殖群については来年度出荷できる目途がついた。これらのアカウニの生殖腺の状態について来年度に調査する。

今年度放流した伊島町大浦湾ササム谷地先はアラメ海中林の発達した転石地帯である。前年度放流したアカウニと成長に差を生ずるかどうか、今後明らかにする。

文 献

- 1) 浜崎晃・谷本尚則・小島博：1985，アカウニ種苗生産試験－I，昭和58年度徳島水試事報，46-49。
- 2) 浜崎晃・宮崎一誠・小島博：1986，アカウニ種苗生産試験－II，昭和59年度徳島水試事報，45-49。